



### 自然環境

サラゴサの景色は、実に変化に富んでいます。エプロ川はサラゴサの生命線とでもいふべき水源です。県内の風景は興味深いコントラストを見せてくれます。ピレネーに入る直前の深い森のすぐ傍で、荒野が広がり、その川辺に生き生きと草花が生息しているというような風景が共存しうるのがサラゴサです。  
デエサ・デ・モンカジョ 国立公園、世界的に認知されている生物圏保護区ラス・バルデナスや渡り鳥の休息地兼子育て場

### 温泉

所でもあるガジョカクタ湖、草原地帯のロマサ・デ・ベルチテ、モネグロスなどはヨーロッパ唯一の気候と風景を楽しむことができます。ブレピレネオとよばれる、ピレネーに続く地帯やピエデモンテは平野と山岳部の接点であり、ここの風景も非常にユニークです。高く低く流れる水は峡谷を走り、平野へ行き着けばゆったりとした湖に姿をかえ、また貯水池に行き着いて、貴重な水源となります。海のないサラゴサ県ですが、湖や貯水池ではウォータースポーツも可能です。

### サラゴサのグルメ

アラマ・デ・アラゴン、バラクエジョス・デ・ヒロカ、ハラバといったカラタジュ地方の市町村に散らばって、サラゴサ県内にはいくつかの温泉が存在します。どの温泉も、近代的な施設が整っており、非常に美しい自然の中に位置し、緑香る静寂と居心地のよい空間が大きな魅力です。19世紀には公益と認められたこれらの鉱泉は、医学的効用にも優れ、ビジターの全てのわがまに答えてくれます。

これらの温泉の近く、ヌエバロス村には、サラゴサ県の宝石とも言えるピエドラ修道院自然公園が広がっています。周囲の彫刻のような岩々、目も見張るような湖や洞穴、荘厳な滝は、ピエドラ川から湧き出た水の流れが何千年にも渡って作り出した芸術品です。河畔は緑濃く、多様な生き物たちを守るここならではのエコ体系を観察するのもまた、有意義な時間となるでしょう。

### サラゴサのグルメ

異文化の接点として、そしてそのバラエティに富んだ地形と気候を考えれば、サラゴサに多様な料理文化が根付いていることは、想像に難くないでしょう。サラゴサの特産品を例に挙げれば、フルーツや野菜といった生鮮食品が一番に上がりますが、山岳部では良質の羊や狩猟肉も手に入り、オリーブオイルにいたっては、国際的な評価を受けているものも珍しくありません。ピレネー付近で生産されるチーズ

の味は保証付。山岳部の肉加工品も伝統のレシビを守り続けています。ワインならカリニエナ、ボルハ、カラタジュ産がお勧めです。伝統料理、コンテンポラリー料理といった境界なく、サラゴサの食材は、強い生命力で貴方の味覚に訴えかけてくるでしょう。

サラゴサ県  
http://zaragozaturismo.dpz.es

Patronato de Turismo  
Diputación de Zaragoza

Plaza de España, 2. 50071 Zaragoza. Tel. 00 34 976 212 032

サラゴサ県



遠い昔から、サラゴサ県はその地理的条件より交通の要所となってきました。ヨーロッパ大陸とイベリア半島をつなぎ、また地中海とカステージャ台地、カンタブリア海へ続く海岸部を結んでいるのがサラゴサ県だといえます。それゆえ、この土地は古くから文化・文明の接点という役割を担ってきました。

#### サラゴサ

広さ17,194 km<sup>2</sup>の県内に、100万人近い人口があり、その多くがサラゴサ市に集中しています。サラゴサ市は市内、周辺ともに産業・商業地域として非常に発展した街です。また、県内に存在するカラタジュ市、タラソナ市、エヘア・デ・ロス・カバジェロス市、ダロカやカスペといった村々も活気があり、歴史的遺産としても重要な意味を持っています。



#### ロマネスク美術とシトー会

中世になり、半島内のイスラム勢力が減退してくると、カトリック勢力は国内の各地にまとまった人口を持ち、かつ宗教的組織が定住するような土地を開拓する必要に迫られました。こうして、サラゴサ周辺にもロマネスク芸術が開花します。それは、封建社会の造形表現であり、フランスなどヨーロッパですでに確立していた手法がスペインにも持ち込まれたものでした。サラゴサ県内には数々のロマネスク芸術が存在しています。こと、ダロカ村の中にはこの時代の建築物が集中しています。また、サラゴサ県北部のシンコ・ビジャス地方内、アラゴン王フェルナンド二世の生地ソス・デル・レイ・カトリコ村、カトリック

とイスラムの戦いで重要な役割を果たしたウンカスティージョ村はサラゴサのロマネスクを語る際、特筆すべきでしょう。サラゴサで忘れてはならないもう一つの中世美術に、シトー会修道院があります。クリュニー修道会への批判から11世紀に始まったシトー修道士会は、原始キリスト教会の簡素さに立ち戻った活動をしました。その様式は初期ゴシックを予兆させ、モンカジョ山脈のふもとには12世紀建立のベルエラ修道院が、また、カラタジュ近辺のピエドラ修道院やエプロ川中流のルエダにてシトー会の軌跡を訪ねることができます。



#### ムデハル様式

カトリック勢力が半島をイスラムから奪回してからも、多くのアラブ人たちがその宗教と習慣を保ちつつ、アラゴン王国に留まっていた人々は、彼ら独自の知識を新たなパトロンのもとで建造物に応用するようになります。こと、エプロ川近辺、南流域にその影響が多く見受けられますが、モンカジョ山脈の裾野周辺はその好例の宝庫となっています。このムデハル様式はアンダルースの概念、様式、システムをカトリック建築に応用し、それぞれの時代のニーズに合わせた装飾様式です。

13世紀から15世紀にかけて城壁を持つ教会やイスラム教的な塔など、独特な建造物が発達しますが、最も特徴があるのがその装飾方法で、レンガ、漆喰、木材、陶器のコンビネーションが基礎となっている点にイスラムの名残を見受けられます。アラゴンのムデハル様式は、その美しさ、荘厳さだけではなく、異文化の共存の重要な証拠であるとして、2001年にユネスコの世界遺産に認定されました。

#### セファラ

1942年、カトリック両王がユダヤ人の追放を命じますが、古くから半島にいたユダヤ人たちはサラゴサの歴史では見逃すことのできない存在です。ユダヤ人がサラゴサの土地に何世紀にも渡って残したものは、非常に豊かで多種多様でした。サラゴサ市は、アラゴンにおけるユダヤ教の中心地といえます。イスラム支配時代、続くカトリック支配時代にも、セファラ（半島に住んだユダヤ人）たちはここで、ゆるぎない精神的リーダーシップを発揮しました。その影響はサラゴサ市だけに留まりません。

シンコ・ビジャス地方内にはユダヤ人地区、シナゴーク、墓地がまだ保存されています。カラタジュ市、ダロカ村、カスペ村にもユダヤ人の残した足跡を迎えることができます。モンカジョ地方に位置するタラソナ市にはユダヤ文化センターが設けられています。



#### ゴヤ

フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテスは、サラゴサ県フエンテドスに生まれました。彼が修行時代を過ごしたのも、最初の絵描きとしての仕事を請けたのも、サラゴサ市においてでした。ピラール聖母教会のフレスコ画の成功から、新たな製作依頼を受けることとなります。ゴヤの初期の作品はムエル村のビルヘン・デ・ラ・フエンテ堂、レモリーノス村とカラタジュ市にそれぞれ存在するサン・ファン・パウティスタ教会、サラゴサ市から13キロほどのウラ・デイ修道院にも収められています。

アラゴンで迎えるゴヤの軌跡はそれだけに留まりません。サラゴサ市立美術館には彼の成熟期の作品が、やはり市内にあるカモン・アスナル美術館には銅版画の一連の作品が収容されています。ゴヤの生家でも彼の作品を鑑賞することができます。またここは、アトリエやギャラリーとしても使用されています。ゴヤを訪ねてフエンテドスへ旅するならば、近辺のムエル村をルートに入れるのもお勧めです。ゴヤのフレスコ画が残っているだけでなく、陶業学校があります。県議会指導のもと、地元の重要な産業である陶業を今に伝えるこの学校では、伝統的手法による陶器作りが続いています。

